

ごあいさつ

福島県立好間高等学校長
佐藤 秀雄



日頃より、本校の教育活動に対し、御理解と御支援を賜りますことに感謝申し上げます。

さて、令和5年度で創立76年目を迎える本校は、教育の根幹を「人づくり」に置き、地域と共に社会に貢献できる人を育むため、「鍛える教育」を実践しております。「自ら律し、自ら学び、自らの夢に挑戦する生徒」を目指して、生徒の限りない可能性を引き出す教育の実践に努めております。

今、グローバル化や少子高齢化の進展、自然環境の急激な変化など、私たちの日常の実感としても、新しい時代への激動の時を生きていると感じざるを得ない状況があります。また、コロナウイルス蔓延という災厄の中で、私たちの誰もが、圧倒的多数の他者と密接に関わり合い支え合いながら生きているという事実を再確認させられています。これからこの時代をしっかりと生き抜いていくために必要なのは、溢れる情報の中から、本当に有用な情報を精査し意志決定する力や、人それぞれの立場や価値観、考え方の違いを認め合い尊重する想像力や寛容性、意見の違う相手とも真摯に向き合い、進むべき道を共に模索し実現していく対話力や表現力です。相手の痛みを想像し慮りながら、私たち生身の人間が、思い、悩み、思案を重ね判断していく真心や温もりのある行動は、到底、人工知能にはない偉業であると思います。

「鍛える教育」の、自らを律し、礼節を重んじる精神の象徴として、生徒及び教職員に受け継がれる所作である「5秒の礼」を大切にしながら、厳しさの中にも優しさや礼儀を兼ね備えた人を育むことを目指して、地域と共により良い未来の創造に貢献する人を育む教育の実践に努めて参ります。

令和7年度にはいわき総合高等学校との統合を控えておりますが、今後とも変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。